

赤★星

月刊

10月2002年(通巻361号) No.19

本号300円(毎月1日発行)
年間購読料 1部3000円(送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262
(関西支社)大阪市北区菅栄町10-10 岸本ビル/TEL 06-6357-6975
発行人 南 安明 <振替> 00120-2-1512 蜂起社・南安明

紙面案内

- ① パレスチナ連帯集会報告
- ② パレスチナ現地交流レポート
- ③ ジョゼ・ボベ/三里塚/日朝会談
- ④ IMF/反原発/予防拘禁法/反弾圧

お知らせ 次号は11月15日発行です。

インティファダ2周年交流週間にライラ・ハリドさんら来日! パレスチナ連帯に全国で1千名!

パレスチナに自由と平和を!



300名が参加した9.28アル・アクサ・インティファダ2周年記念シンポ (東京・中央大駿河台記念館)



9月29日、エルおおさかで開催された関西集会に200名の労働者・市民が参加 (写真中央の発言者がライラ・ハリド)



9.28パレスチナー山谷の集い



10.2パレスチナに平和を! 沖縄の集い

日本・パレスチナ交流週間が大成功

いくつもの抑圧を越え、いくつもの国境を越えて来日したパレスチナの女性・青年たちを迎えて、9・28アル・アクサ・インティファダ2周年を記念する連帯集会や交流会が、「パレスチナに平和を! 日本・パレスチナ交流週間」実行委員会(事務局・月刊『情況』編集部内)の呼びかけの下、9月28日から約10日間わたって東京・大阪・山谷・沖縄など全国各地10カ所以上で開催され、のべ約1千名の参加によって大成功した。

パレスチナ人3人を迎え、これだけの期間と場所を連帯交流の集いが催されたことは、この国のパレスチナ連帯運動の歴史をおそらくかつてなかったことである。

とりわけ、ライラ・ハリドさん(58)は、現在ヨルダンのアンマンに在住し、パレスチナ民族評議会(PNC)議員、パレスチナ女性同盟副議長を務めているが、かつてはパレスチナ解放人民戦線(PFLP)の元「ハイジャックの女性アリラ」として世界にその名を轟かせた筋金入りの闘士だ。メディアの関心も集め、インタビューも行われた。「パレスチナに平和を! 日本・パレスチナ交流週間」の初日9月28日は、2年前、現イスラエル首相ヤロンらが兵士をひきつれ、エルサレム旧市街地のアル・アクサ・モスクのあるイスラム教聖地を強行訪問し、挑発し、これに怒ったパレスチナ民衆が第2次パレスチナ青年同盟代表のバドル・ヒラールさん(20)とエルサレム在住のサイード・ファクリさん(30)を迎え、「パレスチナ山谷交流の集い」が山谷労働者福祉会館で行われ約30名の労働者が参加した。1時間ほどの交流と討論の後、2人は毎週土曜に隅田川沿いの野宿者たちが集まり定例の寄り合い(ミーティング)を持つ場にも合流、30人ほどの仲間とあいさすをかわした。

午後6時、東京御茶ノ水の中央大駿河台記念館で「9・28アル・アクサ・インティファダ2周年記念シンポジウム」が開催された。会場は約3000人の参加者で満杯になった。最初に主催者の実行委員会事務局を代表して大下敦史氏が開会のあいさつをした。その後シンポジウムが伊藤成彦氏の司会によって進められた。

最初に3人の中で一番若いバドル・ヒラール氏(パレスチナ青年同盟)が発言した。「パレスチナ人は、日々イスラエル軍に銃口を突き付けられ残虐な行為に直面している。イスラエルは、ヨルダン川西岸地域とガザ地区に対する占領を止めようとしなさい。これまで、挫折感や怒り、絶望が生み出されている。しかし、パレスチナ人は、土地を守るため、屈辱の無い生活のために闘っている」と訴えた。

次にエルサレム在住の1人としてサイード・ファクリ氏は、「私たちはパレスチナ人にとっての問題は存在の問題だ。パレスチナ人は毎日のようにイスラエル軍によって殺されている。国連は役に立たない。ジェニンの虐殺に対しても調査団さえついに派遣しなかった。パレスチナ人の全人口の約半数はパレスチナの外に難民として存在している。子供たちは学校にも行けない。若者たちは外出禁止令の下で屈辱感にさいなまれている。イスラエルは、パレスチナ人を追い出そうとしている。だから私たちは最後まで闘うしかない。私たちの抵抗をテロだと言うなら占領を止めさせて下さい。私たちは自分たちの存在のために闘っている」と熱く訴えた。

ライラ・ハリドさんは、「第二次インティファダが始まってこの2年間で約2千人近くのパレスチナ人がイスラエル軍によって殺害されている。(その内、15歳以下の子供は約250人を占める)民間調査機関のまとめ。西岸とガザはそれぞれ巨大な牢獄となり子供たちの22・5%が栄養失調状態に置かれている。現在の状況は絶望的だ。しかし民衆が屈服する兆しは見られない。むしろパレスチナ人は以前にもまして自らの権利のために闘う決意を固めている。明らかにイスラエル・シャロン政権には、現在の行き詰まり状況を打開する方策を持っていない。見通しのないままに恐怖と破壊による戦争を宣言しているだけだ。占領を終わらせ、我々の土地と家に帰るため、そしてエル(2面に続く)

反グローバリズムの闘士来日実現 10.29 ジョゼ・ボベ迎え東京集会へ



00年7月ジェノバで決起したジョゼ・ボベ

フランス農民運動のリーダーであるとともに、世界の反グローバリズム運動の先頭で闘うジョゼ・ボベの来日がこの10月に実現することになった。

ジョゼ・ボベは99年に南フランスのミヨールにおいて建設中のマクドナルド店を農民同盟の仲間とともに「解体」したことで一躍世界的に有名になった。ボベさんは禁固3カ月の判決を受けて、この6月に収監されたが、掌々とトラクターの隊列の先頭で堂々と刑務所に向かうという意気軒高なところを示した。

さらにボベは、遺伝子組み替え物引っこ抜きの実行、シアル、ジェノバをはじめとした反グローバリズム闘争、そしてこの3月にはイスラエル軍の侵襲に対して、パレスチナに駆け付けて議長府に入るなど常に行動派として世界各地に飛び回っている。

ボベの闘いの原点である南フランス・ラルザックの農民運動は、70年代には軍事基地拡張反対闘争の拠点として、労働者・市民の闘いと結びつき、三里塚闘争にもエールを送るなど、国際連帯運動に積極的に取り組んできた。その後、87年のフランス農民同盟結成を牽引し、我々が交流したフランスの新たな社会運動の一翼を担ってきた。

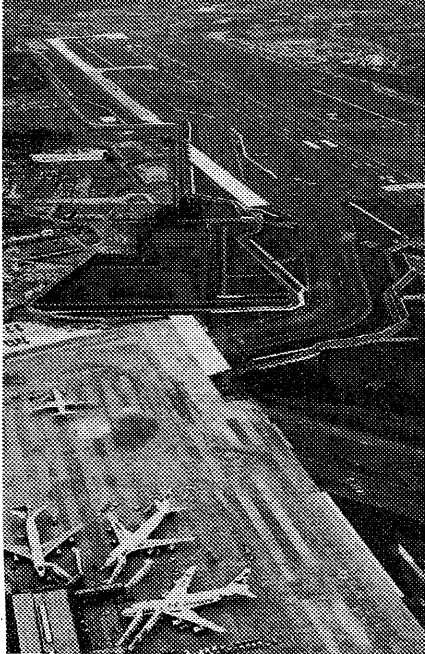
暫定滑走路延伸阻止！ 10.13三里塚へ総結集を

10・13三里塚全国闘争へ向けて、反対同盟の招請状を抜粋して掲載する。

「黒野新緑は2500メートル平行滑走路の完成を掲げて敷地内農家に『話し合い』を強要しています。他方で『地権者との交渉と北側延伸を両らみで進めたい』と語り、農家が路の破綻をなんとか取り繕

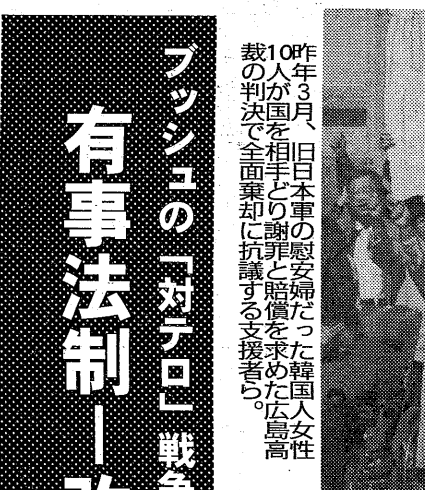
は、パレスチナ行動を振り返って、現実には植民地戦争であり、アパルトヘイトであること述べた上で、『イスラエルはまた、世界銀行の支援のもとに、安価なパレスチナ労働力の搾取を通じて、中東をグローバル化させた生産回路の中に組み込まれた一連の新しい主義政策を実施している』と、それがアメリカ・メキシコ

10・29 ジョゼ・ボベさんと大いに語る東京集会
午後6時 文京区民センター
主催：ジョゼ・ボベさんを招く会



空港の航空写真。右上方が暫定滑走路

「話し合い」に応じなければ再び計画を変更し、暫定滑走路をさらに北側に延長すると脅迫しています。国土交通省は農家の移転を前提とした78億円の『平行滑走路整備費』を、来年度予算の概算要求に盛り込みました。暫定滑走路は平行滑走路の破綻をなんとか取り繕



10月3日、日本軍の慰安婦だった韓国人女性10人が国を相手とする謝罪と賠償を求めた広島高裁の判決で全面棄却に抗議する支援者たち。

フジシユの「対テロ」戦争拡大を許すな！
有事法制—改憲阻止10・14集会へ
正午、恵比寿区民会館、PM2～デモ

9・17日朝首脳会談と 我々の基本的立場

赤井隆樹

9月17日、日本の首相と息として、8人の死、5として初めて北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）を訪問した小泉は、金正日（キム・イリ）朝鮮労働党総書記と首脳会談を行い、日朝首脳会談に先立ち、北朝鮮側は、拉致された人を見られていた11人を含む消

北朝鮮はこれまで「拉致問題は北朝鮮の生命線である」という立場を貫き、金正日は、たしかに拉致問題で非難を浴びるのを覚悟している。だが、特殊機関や軍の一部の行動だったとする積りは「自分には責任がない」として謝罪し、男は徴用工や皇軍兵士に女は「慰安婦」として強制連行し拉致したうさ戦場を連れ回し、おびたしい命を奪いながら、敗戦後57年



崩壊的な経済状況の中で北朝鮮にとって、日本人拉致問題は、不審船防

「御家族の涙と怒り」「オドロドロしい北朝鮮のドクトリンを押し出すこと」

「北朝鮮の拉致事件に見られる『非情さ』は、まったく日專制的独裁体制の『生き残り』の産物である。

北朝鮮の拉致事件に見られる『非情さ』は、まったく日專制的独裁体制の『生き残り』の産物である。

IMF/世銀総会NO!

反グローバリズム連続行動闘う

9・22講演集会 反グローバリズム の展望を模索

帝王の「反テロ国際犯罪網」の先兵的役割も担って、この9月の総会に際しても世界中から抗議の声が叩きつけられている。

こうした状況のなかで、日本における反グローバリゼーションの闘いを追求し続けているACA(反資本主義行動)、ATTAC(Japan)、日韓民衆連帯、全国ネットワークなどが呼びかけて「IMF/世銀総会に反対する2002年行動実行委員会」が結成され、9・22講演集会、9・27 IMF日本事務所抗議申し入れ行動、9・28銀座デモの連続行動が取り組まれた。

まず、9月22日には、早稲田の日本キリスト教教会館で60余名の結集で講演集会が行われた。集会の冒頭で、ブラジルの「土地なき農民運動」(MST)の果敢な占拠闘争と軍・警察による弾圧を記録した「ST RONG ROOTS」のビデオが上映された。続いて、今年のポルトアレグレ、今年の世界社会フォーラムにも参加した清水政夫さん(外国労働組合)より、ビデオ・リベの先駆けが、73年に軍事クーデターを遂行したチリのピノチェット政権の経済政策にあったことは注目をすべきことだ。さらに90年代のラテンアメリカの金融危機が底辺層を直撃し、その中で決起したサパティスタの奮闘生命に力づくに

スタの闘いに、反グローバリゼーションの大きな意義をみる」と説いた。

その上で、危機の渦中にあるアルゼンチンをはじめとしたラテンアメリカの現状から、サパティスタの闘いに加え、アルゼンチンの地域通貨運動、ペルーの働く青少年の運動(6歳〜18歳の広がり)、旧来の左翼の限界を超えたグローバリゼーションと対決する社会運動の可能性を持つのではないか」と結んだ。

その後、質疑応答を経て呼びかけの団体のあいさつで、9・27、28行動の訴えがなされて終了した。

権力の排除に抗して抗議申し入れ行動闘う

9月27日、IMF日本事務所に対する抗議申し入れ行動が闘われた。午後1時、新橋駅前集合した行動の地帯を、国際連帯運動に推し進めていく

う。ビル内にある日本事務所に抗議文を渡すためであったが、何とビル前ではガードマン、機動隊、私服公安が大勢待ち構えていた。実行委が訪問を申し入れたら、「事務所は休業だ。一切受け付けない」と突っぱねたのである。正当な申し入れに対して、かかる対応はまさに反グローバリズム運動の高まりへの恐怖心にほかならぬまい。歩道上で抗議を続けるも今度は、警察権力が「道交法と東京都公安条例違反だ」と、大盾で排除に乗り出した。この不当な弾圧に賭張りながら抗議を続ける。その後、日比谷公園に押し込まれたが毅然と抗議集会とシュプレヒコールを叩きつけ行動を続けた。翌日の28日には、銀座・水谷橋公園で60名が結果して集会、日比谷までのデモが闘われた。この連続行動の地帯を、国際連帯運動に推し進めていく

9.30 JCO臨界被曝事故3周年 怒りも新たに東京行動に起つ

経産省前で追悼と抗議 2人の死者に思いを馳せ 悲しみと怒りも新たに

9月30日、JCO臨界被曝事故3周年行動が、午前中、経産省前で追悼・抗議行動として闘われた。

3年前の9月30日、茨城県東海村のJCO東海事業所で発生した臨界被曝事故は、2人の死者と70人近い被曝者という、日本原発開発史上最悪の惨事となった。国はすべての責任を作業に従事した労働者に押しつけて、でたらめな安全審査を行った科技庁や、違法と知りつつ危険な作業を続行させていた旧動燃の責任は不問にした。想像を絶する苦痛の中で死んだ2人の労働者の無念や、体調悪化が進行している多くの住民の不安は、一顧だにされず風化させられようとしているのだ。

その上で、昨年来の浜岡原発の相次ぐ事故、さらにこの間の東京電力をはじめ全国の電力会社が明らかにした。こうした状況のなかで、JCO事故1周年に結成された9・30実行委は、取り組みを一過性のものに終わらせようとなく大衆運動として9・30の取り組みを持続させてきた。

当日は、朝からどしゃ降りの中、経産省前の追悼抗議行動に45名が参加した。事故が起きた午前10時35分に合わせて全員で黙祷が行われ、現場で国の責任を追及する抗議集会が行われた。その後、代表団が経産省に「東海村臨界事故の体罰悪化が進行している多くの住民の不安は、一顧だにされず風化させられようとしているのだ。」と訴え、午後中の行動を終えた。

今こそ原発廃止へ！ 銀座デモと東京電力前弾劾行動を勝ち取る

夕刻からの東京集会は、中央区京橋プラザで行われ会場には各地から210名が結集した。

集会ではまず9・30実行委より「JCO事故に怒り追及した3年間」と題した基調が提起された。この一年の特徴としては、地元住民の体罰悪化が報告されているが、住民被曝者への医療などの補償はほとんど進まないこと、そして責任の所在を問うJCO裁判が大詰めを迎えていることが挙げられた。そして今後、臨界事故被害者の会の運動を支援し、事故原因と真の責任を追及する。電力会社の事故隠しは国との共犯だとして徹底追及する運動の一翼を担い、今こそ原発廃止を大々的に訴えていく方針が述べられた。

続く講演は、JCO臨界事故調査市民の会の植田敦さん(名城大学教授)よりJCO事故の構図と実態について、緻密にして明快な分析がなされた。さらに特別報告として、たんぼ舎の山崎久隆さんより、この

予防拘禁法を廃案へ！ 10・6集会・デモ勝ち取る

10月6日、「精神障害者差別・保安処分を許すな」予防拘禁法を廃案へ！10・6集会・デモ」が文京区民センターにて192名の結集で勝ち取られた。

予防拘禁法(「心神喪失者医療及び観察法案」)は今春の通常国会の成立は断念に迫り込んだが、政府は10月からの臨時国会での成立を目指している。保安処分以外の何物でもないこの悪法の廃案を目指すべく、5〜7月の大衆行動を継承

政府の経済政策と大失業に抗議して立ち上がったアルゼンチンの民衆



者「差別・保安処分を許すな」予防拘禁法を廃案へ！10・6集会・デモ」が文京区民センターにて192名の結集で勝ち取られた。

予防拘禁法(「心神喪失者医療及び観察法案」)は今春の通常国会の成立は断念に迫り込んだが、政府は10月からの臨時国会での成立を目指している。保安処分以外の何物でもないこの悪法の廃案を目指すべく、5〜7月の大衆行動を継承

9・14 反弾圧闘争に決起

9月13日、第27回9・14反弾圧闘争が中央区京橋プラザ区民館で開催され、闘争の中心に170名が結集した。76年の争議団一斉弾圧への共同反撃の闘いとして取り組まれてきた9・14闘争も今年初めての屋内開催となる。集会は例年と同じく、権力の不当弾圧と闘い抜いた仲間からの決意表明として、鳥井電器シャヤハンさんの解雇撤回闘争を支える会、法政大9・21行動反弾圧闘争

者」として不当に逮捕された裁判に訴えた講師の悟道軒團主さん、日本精神神経学会の富田三樹生さん、弁護士の高山俊吉さん、全国精神医療労働組合のメンバーのみなさん、決議文を全て確認しシュプレヒコールをもって集会を終えた。

デモは神保町を経て錦華公園まで、歌を交えながら元気で進められた。11月21日の国会デモ(午後6時・星陵会館)に結集し、廃案へ向けるとともに闘おう!

「共謀罪」新設計すな 法制審へ抗議行動

9月18日、破防法・組対法に反対する共同行動は、「共謀罪」の新設計に向けて一回目の審議に入った法制審議会(刑事法部会)に対して抗議の申し入れ行動を闘った。既に前号でも報告したように、「共謀罪」は実行行為が伴わなくても「犯罪の共謀」と判断しただけで逮捕できる恐れを帯び治安弾圧法であり、法制審での審議がスタートしたという事は、来年の国会提出が現実的な日程上、このことが求められている。新たな治安法を許すな!